

独立行政法人国立文化財機構第5期中期目標変更 新旧対照表

赤字・下線部は改正部分

中期目標（変更案）	現行中期目標	備考（理由）
<p>独立行政法人国立文化財機構が達成すべき業務運営に関する目標（中期目標）</p> <p>（略）</p> <p>I 政策体系における法人の位置づけ及び役割</p> <p><法人の使命>（略）</p> <p><法人の現状と課題></p> <p>文化財機構が設置する東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館及び皇居三の丸尚蔵館（以下総称して「国立博物館」という。）においてはこれまで蓄積した経験・実績を強みに、体系的・通史的にバランスの取れた収蔵品の集積と脆弱な文化財の適切な保存管理、研究成果を踏まえた魅力ある展示と教育普及事業を継続して実施するとともに、東京文化財研究所及び奈良文化財研究所（以下総称して「文化財研究所」という。）においては、文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査研究の実施を通じ、文化財に関する新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究等を推進している。</p> <p>他方、文化財の継承につなげるための最新技術等の活用及び文化財の積極的な活用に関する新たな取組や文化財防災に関する国立施設としての取組の充実化及び施設設備の老朽化対策については、今後の課題として取り組む必要がある。</p> <p><政策を取り巻く環境の変化>（略）</p>	<p>独立行政法人国立文化財機構が達成すべき業務運営に関する目標（中期目標）</p> <p>（略）</p> <p>I 政策体系における法人の位置づけ及び役割</p> <p><法人の使命>（略）</p> <p><法人の現状と課題></p> <p>文化財機構が設置する東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館（以下総称して「国立博物館」という。）においてはこれまで蓄積した経験・実績を強みに、体系的・通史的にバランスの取れた収蔵品の集積と脆弱な文化財の適切な保存管理、研究成果を踏まえた魅力ある展示と教育普及事業を継続して実施するとともに、東京文化財研究所及び奈良文化財研究所（以下総称して「文化財研究所」という。）においては、文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査研究の実施を通じ、文化財に関する新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究等を推進している。</p> <p>他方、文化財の継承につなげるための最新技術等の活用及び文化財の積極的な活用に関する新たな取組や文化財防災に関する国立施設としての取組の充実化及び施設設備の老朽化対策については、今後の課題として取り組む必要がある。</p> <p><政策を取り巻く環境の変化>（略）</p>	<p>皇居三の丸尚蔵館の移管による変更</p>

中期目標（変更案）	現行中期目標	備考（理由）
<p>II～III（略）</p> <p>IV 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>1. ～ 2.（略）</p> <p>3. 予算執行の効率化</p> <p>独立行政法人会計基準における運営費交付金の会計処理として、業務達成基準による収益化が原則とされていることを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。</p> <p>V～VI（略）</p>	<p>II～III（略）</p> <p>IV 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>1. ～2.（略）</p> <p>3. 予算執行の効率化</p> <p>独立行政法人会計基準における運営費交付金の会計処理として、業務達成基準による収益化が原則とされたていることを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。</p> <p>V～VI（略）</p>	<p>(赤字)</p>